

自身の免疫力と支えてくれた母、勇気を与えてくれた手記、

Dr. 松本氏に心から感謝。

「平成のブラックジャック Dr. 松本仁幸

(アトピー性皮膚炎手記)」

今井 圭太 40歳

2017年10月12日

まずは、本物のドクター松本氏と出会うことができ、そして、今こうして手記がかけるまでに回復したことに大変感謝しております。ありがとうございます。

僕は物心がついた時には肘、膝の関節に痒みが常にあり、掻いては皮膚を壊し、かさぶたをつくっていました。小さな頃から親に手を引かれて皮膚科へ連れられ、軽めのステロイドを処方されては傷口に少し塗り、炎症をおさえる日々。体に掻き傷があり、カサカサしているのが常のアトピー少年でした。幸いそこまでの強いアトピー性皮膚炎ではなかったですが、それでも痒みは常にあり、大人になっても“掻いてはかさぶた”を常に大小はあれども繰り返していました。

時は流れ、20歳を過ぎてからの食生活はインスタントラーメンやスナック菓子、外食メイン、そして飲酒喫煙。化学物質だらけの体に悪いものばかりを繰り返し、とっていた自分の皮膚に異常を感じたのは2年前の38歳ぐらいの時でした。今まで全く感じることのなかった部分、脇周辺に痒みが。ポリポリ掻いているうちに掻き壊し傷に。

「飲み過ぎたかな？」そう思っているのも束の間でした。ほんの2、3ヵ月で脇から背中、二の腕へと徐々に痒み、湿疹が広がり、掻き壊す範囲が広がっていきます。太ももそして顔にも。今までこんな広範囲に痒みが広がったことはありません。「なんだこれ？」不安に感じた僕はそれが当時はそれが何かわからずに近所の皮膚科へ。

診断は“アトピーの悪化”。またステロイドを処方されました。ネット等の情報からステロイドを塗ってはいけないということを理解していたつもりだったので、診察に納得がいかず、その後も5箇所ほどの皮膚科を受診しました。しかし、結果処方は全てステロイドでした。とりあえず、このどんどんと広がる痒みを抑えたい一心で、やむなく処方されたステロイドを炎症部分に塗布しま

した。今考えるとゾッとする行動です。免疫を抑制し、深部のヘルペスの増殖をますます加速させていたのですから。痒みは一瞬おさまるものの、また再発。そして、ステロイドの塗布を中止し、いろいろネットで調べた結果良さそうな沖縄の薬草の塗り薬を取り寄せて患部に塗布。しかし、一向に良くなる気配はなく、痒みは続き、また掻き壊す。顔も紅潮し今までの食生活を改めはしたものの治らない。

そんな毎日ボリボリ掻き壊し、悪化の一方の僕に、たまたま地元の先輩から「アトピーを掻かすだけ掻かせて治す仙人みたいな医者が高槻にいる。松本さんっていうみたいやけど、知人がそれで随分と良くなったみたいやで」と教えてもらいました。「なんだそれ？」一瞬びっくりしましたがあわててネットで「松本、高槻、漢方、仙人」でたたくと、高槻市の松本医院がヒットしました。項目をクリックし、丁寧に説明されていた様々なレポートを片っ端から読みあさり、アトピーは完治するという理論に感銘を受け、高槻市へ。幸い電車で約30分、1本でいける場所にあったため、とてもありがたかったです。

ドキドキしながらいざ、医院の扉を開けるとふう〜ん。皆さんも経験されたであろう待合室一带に広がる漢方の独特の匂い。癖のある匂いでしたが、同時にいかにも効きそうな匂いでもありました。そして、見渡すと大量の手記。最初に手渡された説明一式をしっかりと読み、そして診察室へ……。細いスペースの奥に松本ドクターが。

「よー来たな。誰から聞いてきた？レポート読んだか？アトピーの原因はなんや？病気は誰が治すんや？」間髪いれずにとんできた怒涛の質問にそれでも予習してきた僕は、「先輩から聞きました。はい。読みました。アトピーの原因は化学物質です。病気は自分の免疫が治します。」「よっしゃ。お前はかしこい。わしが治すんやない。病気はお前の免疫が治すんや。」堅く優しい握手をかわし、煎じ薬、塗り薬を処方してもらいました。

そして母に協力してもらいながら着実に遂行。すると1ヶ月ほどで、症状が一瞬改善。あれ？すぐ治った。すげーっ！と思っていたのも束の間、そこから2、3日後ぐらいに腕（肘から先）に大量のグチュグチュした湿疹が……。痒い……。掻き壊すと汁がブチュ。一気に壊れて傷に。煎じ薬もなくなりかけていたので、また松本医院に。

松本ドクターは見るなり、「これからお前が今まで塗り込んできたステロイドの分だけリバウンドがくるぞ」。「そこまで大したことないでしょ？」と思っていた僕の体にそこから数ヶ月かけて、腕全体、背中、腰、お尻、顔、太ももから足元へかけて。今考えれば以前ステロイド（顔にはプロトピック）を塗布した箇所にグチュグチュの水疱が各箇所に時間差で大量に……。

痒くて痒くて痒くて痒くて痒くて、とても眠れない状態が数ヶ月続きました。なんだ？この痒さは？刺すような猛烈な痒み。体は掻き壊した傷だらけに。そして、眠くなって寝ようとしても布団に入るとすぐに強烈な痒みが……。痒い。起き上がっては掻く。掻いているうちに眠気が飛び、もうその日は眠れな

い。まる2日寝ていないのに眠くない。無理やり布団に入って寝ようとするともまた猛烈な痒みで布団から飛び起きる。フラフラになって眠気がやっときて布団に入っても、2時間ほど寝て、また猛烈な痒みで叩き起こされる。「ほんまにあってんのか？この治療。どんどん酷くなる。」そう思うたびに手記とホームページのアトピー完治の理論をまた読み直す。ときおり出てくる「ワッハッハ」というフレーズに僕もつられて笑い、痒みがほんの少しマシになる。ワッハッハ。松本ドクターの改善の理論と実績は折り紙つき。自分も同じく治ると自分に言い聞かせ、寝不足でイライラがピークになりながらもひたすら耐える日々。煎じ薬、塗り薬。ボロボロの顔と体の痒み、そして搔いた後の傷の痛みには耐えながら生活する日々。唯一漢方風呂につかっている時間だけが1日のうちでリラックスできる時間でした。

「ほんまに治るんか？」それでも煎じ薬を作ってくれ、イライラも受け止めてくれ、全面サポートの母と共に耐える日々。2年か3年か？いつまで続く？この状態は？きついというレベルではない。まさに生き地獄。

ですが、やがてそれを数ヶ月（ピークは2017年4月～8月）繰り返した後に、まるで何事もなかったかのように傷は回復。増えすぎたヘルペスを出しきると痒みもだんだんと治まり、ようやく眠気も復活し、眠れるように。

そして、通院すると「顔が綺麗になってきたな」と言われ。そして、あれだけ出ていたグチュグチュの皮膚はほぼ全面回復。布団に入っても痒くない。眠気がきてしっかり眠れる。「なんて幸せなんだ」

理論通り僕の体で実験した結果、綺麗な皮膚に。猛烈な痒みにより地獄を見ました。ただ、この闘病でいろいろなことを学びました。当たり前のようなことがとても幸せであること。いろいろな方の心からの協力。そこからくるのは真の「感謝」の意味を心から理解できたということ。

これは余談ですが、苦しみを耐え抜けば必ずいいことがついてきます。顔のかき傷が治ると一重がなぜか二重になっていました。アトピー改善は完璧な理論ですがこれだけは奇跡です。ワッハッハ。自分の免疫を高めてくれた漢方煎じ薬。傷をいち早く回復するサポートをしてくれた漢方風呂。傷の回復の促しと菌の侵入を防いでくれた塗り薬。

まだ油断するつもりはありませんがこれからも化学物質はなるべく控え、ストレスをためることなく、もちろんステロイドは一切塗らない。地獄を見ましたが、回復させてくれた自身の免疫力とサポートしてくれた母。改善させ、手記をつづり勇気を与えてくださった患者の皆様。そしてアレルギー疾患の改善、完治の理論と実績を積み上げ、間違いだらけの医療業界に反発し、真実を伝えるべく患者を最大限サポートしてくださる正真正銘真実の医者松本仁幸ドクターに心から感謝の意を表します。この方こそが「ノーベル賞」に値する国宝クラスの希少な名医なのであります。決して過言ではありません。

松本医院がなければ僕の皮膚は一体どうなっていたのでしょうか？今考えても恐ろしくゾッとします。松本先生本当にありがとうございます。間違いなく

数少ない一生の恩人の一人です。心より感謝申し上げます。

追記

アトピー患者は600~700万人とも言われ、その他のアレルギーを含めるとその患者数はさらに増えます。松本先生ぜひ長生きしてください。



